

関川村過疎地域持続的発展計画 変更箇所対照表

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後	変更前
目次	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p>1. 基本的な事項・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>2. 移住・定住・地域交流の促進、人材育成・・・・・・・・ 11</p> <p>3. 産業の振興・・・・・・・・・・・・・・・・ 13</p> <p>4. 地域における情報化・・・・・・・・・・・・ <u>23</u></p> <p>5. 交通施設の整備、交通手段の確保・・・・・・・・・・・・ <u>24</u></p> <p>6. 生活環境の整備・・・・・・・・・・・・・・ <u>27</u></p> <p>7. 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び 福祉の向上及び増進・・・・ <u>33</u></p> <p>8. 医療の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <u>38</u></p> <p>9. 教育の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <u>40</u></p> <p>10. 集落の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <u>44</u></p> <p>11. 地域文化の振興等・・・・・・・・・・・・・・ <u>45</u></p> <p>12. 再生可能エネルギーの利用の促進・・・・・・・・・・・・ <u>46</u></p> <p>13. その他地域の自立促進に関し必要な事項・・・・・・・・ <u>48</u></p> <p>14. 事業計画（過疎地域持続的発展特別事業分）・・・・・・ <u>50</u></p>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p>1. 基本的な事項・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>2. 移住・定住・地域交流の促進、人材育成・・・・・・・・ 11</p> <p>3. 産業の振興・・・・・・・・・・・・・・・・ 13</p> <p>4. 地域における情報化・・・・・・・・・・・・ <u>22</u></p> <p>5. 交通施設の整備、交通手段の確保・・・・・・・・・・・・ <u>23</u></p> <p>6. 生活環境の整備・・・・・・・・・・・・・・ <u>26</u></p> <p>7. 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び 福祉の向上及び増進・・・・ <u>31</u></p> <p>8. 医療の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <u>35</u></p> <p>9. 教育の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <u>37</u></p> <p>10. 集落の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <u>41</u></p> <p>11. 地域文化の振興等・・・・・・・・・・・・・・ <u>42</u></p> <p>12. 再生可能エネルギーの利用の促進・・・・・・・・・・・・ <u>43</u></p> <p>13. その他地域の自立促進に関し必要な事項・・・・・・・・ <u>44</u></p> <p>14. 事業計画（過疎地域持続的発展特別事業分）・・・・・・ <u>45</u></p>

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後	変更前
3 頁	<p>(2) 人口及び産業の推移と動向 ア 年齢別・男女別人口の推移</p> <p>昭和 35 年に 11,528 人を数えた人口は、<u>令和 2 年</u>には <u>5,144 人</u>となり、この <u>60 年</u>間に <u>55.4%</u> (<u>6,384 人</u>) の減少をみています。</p> <p>人口の推移をみると、昭和 35 年 (国勢調査) を 100 とみたとき、平成 2 年は 70、平成 17 年は 61、<u>令和 2 年</u>は <u>45</u>となっています。年代別にみると、年少人口 (14 歳以下) では、平成 2 年が 35、平成 17 年が 22、<u>令和 2 年</u>が <u>12</u>。生産年齢人口 (15 歳～64 歳) では、平成 2 年は 74、平成 17 年は 56、そして <u>令和 2 年</u>は <u>36</u>。老年人口 (65 歳以上) では、平成 2 年が 232、平成 17 年が 333、そして <u>令和 2 年</u>が <u>314</u> となり、年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は増加し、高齢化が急速に進行しています。なお、平成 2 年の国勢調査で、初めて年少人口と老年人口の構成比が逆転しました。</p> <p>今後も現状の人口動態が続いた場合、村の人口は 2030 年には約 4,000 人、2045 年には約 2,700 人、2065 年には現在人口の約 28% の 1,470 人程度まで減少することが予測されます (国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 (以下「社人研」という。) の調査を基に推計)。その際の高齢化率 (65 歳以上の人口割合) は 54% に達し、<u>令和 2 年</u>の <u>43.1%</u> を大きく上回ります。また、老年人口 (65 歳以上の人口) が生産年齢人口 (15 歳以上 64 歳未満の人口) を上回ることも予測され、村全体の活力が維持できるか心配されま</p>	<p>(2) 人口及び産業の推移と動向 ア 年齢別・男女別人口の推移</p> <p>昭和 35 年に 11,528 人を数えた人口は、<u>平成 27 年</u>には <u>5,832 人</u>となり、この <u>55 年</u>間に <u>49.4%</u> (<u>5,696 人</u>) の減少をみえています。</p> <p>人口の推移をみると、昭和 35 年 (国勢調査) を 100 とみたとき、平成 2 年は 70、平成 17 年は 61、<u>平成 27 年</u>は <u>51</u>となっています。年代別にみると、年少人口 (14 歳以下) では、平成 2 年が 35、平成 17 年が 22、<u>平成 27 年</u>が <u>15</u>。生産年齢人口 (15 歳～64 歳) では、平成 2 年は 74、平成 17 年は 56、そして <u>平成 27 年</u>は <u>44</u>。老年人口 (65 歳以上) では、平成 2 年が 232、平成 17 年が 333、そして <u>平成 27 年</u>が <u>323</u> となり、年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は増加し、高齢化が急速に進行しています。なお、平成 2 年の国勢調査で、初めて年少人口と老年人口の構成比が逆転しました。</p> <p>今後も現状の人口動態が続いた場合、村の人口は 2030 年には約 4,000 人、2045 年には約 2,700 人、2065 年には現在人口の約 28% の 1,470 人程度まで減少することが予測されます (国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 (以下「社人研」という。) の調査を基に推計)。その際の高齢化率 (65 歳以上の人口割合) は 54% に達し、<u>平成 27 年</u>の <u>39.1%</u> を大きく上回ります。また、老年人口 (65 歳以上の人口) が生産年齢人口 (15 歳以上 64 歳未満の人口) を上回ることも予測され、村全体の活力が維持できるか心配されま</p>

変更箇所
(変更後計画
の頁、行等)

変更後

変更前

4 頁

第3図表 人口の推移（国勢調査）

区 分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		令和2年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総 数	人 11,528	人 8,928	% △22.6	人 8,094	% △9.3	人 7,019	% △13.3	人 5,144	% △26.7
0～14歳	4,072	2,046	△49.8	1,426	△30.3	912	△36.0	467	△48.8
15～64歳	6,749	5,818	△13.8	5,026	△13.6	3,754	△25.3	2,458	△34.5
うち15～29歳(a)	2,530	1,637	△35.3	1,132	△30.8	846	△25.3	471	△44.3
65歳以上(b)	707	1,064	50.5	1,641	54.2	2,353	43.4	2,219	△5.7
(a)/総数 若年者比率	% 21.9	% 18.3	—	% 14.0	—	% 12.1	—	% 9.2	—
(b)/総数 高齢者比率	% 6.1	% 11.9	—	% 20.3	—	% 33.5	—	% 43.1	—

第3図表 人口の推移（国勢調査）

区 分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総 数	人 11,528	人 8,928	% △22.6	人 8,094	% △9.3	人 7,019	% △13.3	人 5,832	% △16.9
0～14歳	4,072	2,046	△49.8	1,426	△30.3	912	△36.0	601	△34.1
15～64歳	6,749	5,818	△13.8	5,026	△13.6	3,754	△25.3	2,949	△21.4
うち15～29歳(a)	2,530	1,637	△35.3	1,132	△30.8	846	△25.3	611	△27.8
65歳以上(b)	707	1,064	50.5	1,641	54.2	2,353	43.4	2,282	△3.0
(a)/総数 若年者比率	% 21.9	% 18.3	—	% 14.0	—	% 12.1	—	% 10.4	—
(b)/総数 高齢者比率	% 6.1	% 11.9	—	% 20.3	—	% 33.5	—	% 39.1	—

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後	変更前																																																																																																																																																																																																																																																
4 頁	<p>第5図表 人口の見通し（国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所推計値）</p> <p>I 男女別人口 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="378 387 1196 555"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17年</th> <th>平成 27年</th> <th>令和 2年</th> <th>令和 7年</th> <th>令和 12年</th> <th>令和 17年</th> <th>令和 22年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>7,019</td> <td>5,832</td> <td><u>5,144</u></td> <td>4,656</td> <td>4,131</td> <td>3,647</td> <td>3,196</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>3,339</td> <td>2,758</td> <td><u>2,444</u></td> <td>2,199</td> <td>1,952</td> <td>1,720</td> <td>1,503</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>3,680</td> <td>3,074</td> <td><u>2,700</u></td> <td>2,457</td> <td>2,179</td> <td>1,927</td> <td>1,693</td> </tr> </tbody> </table> <p>II 年齢別人口 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="378 600 1196 807"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17年</th> <th>平成 27年</th> <th>令和 2年</th> <th>令和 7年</th> <th>令和 12年</th> <th>令和 17年</th> <th>令和 22年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>7,019</td> <td>5,832</td> <td><u>5,144</u></td> <td>4,656</td> <td>4,131</td> <td>3,647</td> <td>3,196</td> </tr> <tr> <td>0～14歳</td> <td>912</td> <td>601</td> <td><u>467</u></td> <td>429</td> <td>367</td> <td>312</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>15～64歳</td> <td>3,754</td> <td>2,949</td> <td><u>2,458</u></td> <td>2,119</td> <td>1,803</td> <td>1,556</td> <td>1,311</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>2,353</td> <td>2,282</td> <td><u>2,219</u></td> <td>2,108</td> <td>1,961</td> <td>1,779</td> <td>1,616</td> </tr> </tbody> </table> <p>III 女性の年齢別人口 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="378 852 1196 1094"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17年</th> <th>平成 27年</th> <th>令和 2年</th> <th>令和 7年</th> <th>令和 12年</th> <th>令和 17年</th> <th>令和 22年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>518</td> <td>390</td> <td><u>297</u></td> <td>270</td> <td>223</td> <td>182</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>20～24歳</td> <td>98</td> <td>82</td> <td><u>50</u></td> <td>53</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>25～29歳</td> <td>129</td> <td>92</td> <td><u>62</u></td> <td>61</td> <td>53</td> <td>43</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>30～34歳</td> <td>137</td> <td>93</td> <td><u>94</u></td> <td>73</td> <td>52</td> <td>46</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>35～39歳</td> <td>154</td> <td>123</td> <td><u>91</u></td> <td>83</td> <td>76</td> <td>55</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>		平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	計	7,019	5,832	<u>5,144</u>	4,656	4,131	3,647	3,196	男	3,339	2,758	<u>2,444</u>	2,199	1,952	1,720	1,503	女	3,680	3,074	<u>2,700</u>	2,457	2,179	1,927	1,693		平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	計	7,019	5,832	<u>5,144</u>	4,656	4,131	3,647	3,196	0～14歳	912	601	<u>467</u>	429	367	312	269	15～64歳	3,754	2,949	<u>2,458</u>	2,119	1,803	1,556	1,311	65歳以上	2,353	2,282	<u>2,219</u>	2,108	1,961	1,779	1,616		平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	計	518	390	<u>297</u>	270	223	182	157	20～24歳	98	82	<u>50</u>	53	42	38	35	25～29歳	129	92	<u>62</u>	61	53	43	38	30～34歳	137	93	<u>94</u>	73	52	46	37	35～39歳	154	123	<u>91</u>	83	76	55	47	<p>第5図表 人口の見通し（国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所推計値）</p> <p>I 男女別人口 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="1263 387 2080 555"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17年</th> <th>平成 27年</th> <th>令和 2年</th> <th>令和 7年</th> <th>令和 12年</th> <th>令和 17年</th> <th>令和 22年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>7,019</td> <td>5,832</td> <td><u>5,232</u></td> <td>4,656</td> <td>4,131</td> <td>3,647</td> <td>3,196</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>3,339</td> <td>2,758</td> <td><u>2,473</u></td> <td>2,199</td> <td>1,952</td> <td>1,720</td> <td>1,503</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>3,680</td> <td>3,074</td> <td><u>2,750</u></td> <td>2,457</td> <td>2,179</td> <td>1,927</td> <td>1,693</td> </tr> </tbody> </table> <p>II 年齢別人口 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="1263 600 2080 807"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17年</th> <th>平成 27年</th> <th>令和 2年</th> <th>令和 7年</th> <th>令和 12年</th> <th>令和 17年</th> <th>令和 22年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>7,019</td> <td>5,832</td> <td><u>5,232</u></td> <td>4,656</td> <td>4,131</td> <td>3,647</td> <td>3,196</td> </tr> <tr> <td>0～14歳</td> <td>912</td> <td>601</td> <td><u>503</u></td> <td>429</td> <td>367</td> <td>312</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>15～64歳</td> <td>3,754</td> <td>2,949</td> <td><u>2,500</u></td> <td>2,119</td> <td>1,803</td> <td>1,556</td> <td>1,311</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>2,353</td> <td>2,282</td> <td><u>2,229</u></td> <td>2,108</td> <td>1,961</td> <td>1,779</td> <td>1,616</td> </tr> </tbody> </table> <p>III 女性の年齢別人口 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="1263 852 2080 1094"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17年</th> <th>平成 27年</th> <th>令和 2年</th> <th>令和 7年</th> <th>令和 12年</th> <th>令和 17年</th> <th>令和 22年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>518</td> <td>390</td> <td><u>320</u></td> <td>270</td> <td>223</td> <td>182</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>20～24歳</td> <td>98</td> <td>82</td> <td><u>60</u></td> <td>53</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>25～29歳</td> <td>129</td> <td>92</td> <td><u>84</u></td> <td>61</td> <td>53</td> <td>43</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>30～34歳</td> <td>137</td> <td>93</td> <td><u>79</u></td> <td>73</td> <td>52</td> <td>46</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>35～39歳</td> <td>154</td> <td>123</td> <td><u>97</u></td> <td>83</td> <td>76</td> <td>55</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>		平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	計	7,019	5,832	<u>5,232</u>	4,656	4,131	3,647	3,196	男	3,339	2,758	<u>2,473</u>	2,199	1,952	1,720	1,503	女	3,680	3,074	<u>2,750</u>	2,457	2,179	1,927	1,693		平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	計	7,019	5,832	<u>5,232</u>	4,656	4,131	3,647	3,196	0～14歳	912	601	<u>503</u>	429	367	312	269	15～64歳	3,754	2,949	<u>2,500</u>	2,119	1,803	1,556	1,311	65歳以上	2,353	2,282	<u>2,229</u>	2,108	1,961	1,779	1,616		平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	計	518	390	<u>320</u>	270	223	182	157	20～24歳	98	82	<u>60</u>	53	42	38	35	25～29歳	129	92	<u>84</u>	61	53	43	38	30～34歳	137	93	<u>79</u>	73	52	46	37	35～39歳	154	123	<u>97</u>	83	76	55	47
	平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年																																																																																																																																																																																																																																											
計	7,019	5,832	<u>5,144</u>	4,656	4,131	3,647	3,196																																																																																																																																																																																																																																											
男	3,339	2,758	<u>2,444</u>	2,199	1,952	1,720	1,503																																																																																																																																																																																																																																											
女	3,680	3,074	<u>2,700</u>	2,457	2,179	1,927	1,693																																																																																																																																																																																																																																											
	平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年																																																																																																																																																																																																																																											
計	7,019	5,832	<u>5,144</u>	4,656	4,131	3,647	3,196																																																																																																																																																																																																																																											
0～14歳	912	601	<u>467</u>	429	367	312	269																																																																																																																																																																																																																																											
15～64歳	3,754	2,949	<u>2,458</u>	2,119	1,803	1,556	1,311																																																																																																																																																																																																																																											
65歳以上	2,353	2,282	<u>2,219</u>	2,108	1,961	1,779	1,616																																																																																																																																																																																																																																											
	平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年																																																																																																																																																																																																																																											
計	518	390	<u>297</u>	270	223	182	157																																																																																																																																																																																																																																											
20～24歳	98	82	<u>50</u>	53	42	38	35																																																																																																																																																																																																																																											
25～29歳	129	92	<u>62</u>	61	53	43	38																																																																																																																																																																																																																																											
30～34歳	137	93	<u>94</u>	73	52	46	37																																																																																																																																																																																																																																											
35～39歳	154	123	<u>91</u>	83	76	55	47																																																																																																																																																																																																																																											
	平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年																																																																																																																																																																																																																																											
計	7,019	5,832	<u>5,232</u>	4,656	4,131	3,647	3,196																																																																																																																																																																																																																																											
男	3,339	2,758	<u>2,473</u>	2,199	1,952	1,720	1,503																																																																																																																																																																																																																																											
女	3,680	3,074	<u>2,750</u>	2,457	2,179	1,927	1,693																																																																																																																																																																																																																																											
	平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年																																																																																																																																																																																																																																											
計	7,019	5,832	<u>5,232</u>	4,656	4,131	3,647	3,196																																																																																																																																																																																																																																											
0～14歳	912	601	<u>503</u>	429	367	312	269																																																																																																																																																																																																																																											
15～64歳	3,754	2,949	<u>2,500</u>	2,119	1,803	1,556	1,311																																																																																																																																																																																																																																											
65歳以上	2,353	2,282	<u>2,229</u>	2,108	1,961	1,779	1,616																																																																																																																																																																																																																																											
	平成 17年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年																																																																																																																																																																																																																																											
計	518	390	<u>320</u>	270	223	182	157																																																																																																																																																																																																																																											
20～24歳	98	82	<u>60</u>	53	42	38	35																																																																																																																																																																																																																																											
25～29歳	129	92	<u>84</u>	61	53	43	38																																																																																																																																																																																																																																											
30～34歳	137	93	<u>79</u>	73	52	46	37																																																																																																																																																																																																																																											
35～39歳	154	123	<u>97</u>	83	76	55	47																																																																																																																																																																																																																																											

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後	変更前																																																																																																																																																																																																						
5 頁	<p>ウ 世帯数と1世帯当たりの世帯人員 昭和35年の総世帯数は2,114世帯でしたが、令和2年には1,756世帯まで減少しました。著しい人口減少にもかかわらず、世帯数は16.9%の減少にとどまっています。一方、1世帯当たり人員は減少傾向にあり、近年は高齢者のみの世帯が増加しています。</p> <p>第6図表 規模別世帯数の推移（国勢調査）</p> <table border="1" data-bbox="349 549 1104 805"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th rowspan="2">総世帯数</th> <th colspan="4">普通世帯</th> </tr> <tr> <th>世帯数</th> <th>うち 単独世帯</th> <th>世帯員</th> <th>1世帯当 たり人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>昭和35年</td><td>2,114</td><td>1,991</td><td>47</td><td>11,347</td><td>5.7</td></tr> <tr><td>昭和50年</td><td>2,062</td><td>2,034</td><td>113</td><td>8,872</td><td>4.4</td></tr> <tr><td>平成2年</td><td>2,047</td><td>2,046</td><td>175</td><td>8,093</td><td>4.0</td></tr> <tr><td>平成17年</td><td>1,983</td><td>1,978</td><td>292</td><td>6,864</td><td>3.4</td></tr> <tr><td>令和2年</td><td>1,756</td><td>1,751</td><td>393</td><td>4,984</td><td>2.8</td></tr> </tbody> </table> <p>エ 産業別就業人口の推移 関川村は、長い間農業を産業の柱としてきましたが、米作環境の悪化等により、農業を中心とする第1次産業の就業人口比率は激減しています。一方、第3次産業の就業人口比率は一貫して増加しており、令和2年には半数以上が第3次産業に就業しています。</p> <p>第7図表 産業別人口の動向（国勢調査）</p> <table border="1" data-bbox="349 1070 1200 1390"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th>昭和35年</th> <th colspan="2">昭和50年</th> <th colspan="2">平成2年</th> <th colspan="2">平成17年</th> <th colspan="2">令和2年</th> </tr> <tr> <th>実数</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 数</td> <td>人 5,797</td> <td>人 4,660</td> <td>% △19.6</td> <td>人 4,296</td> <td>% △7.8</td> <td>人 3,629</td> <td>% △15.5</td> <td>人 2,649</td> <td>% △27.0</td> </tr> <tr> <td>第1次産業 就業人口比率</td> <td>% 71.1</td> <td>% 45.8</td> <td>—</td> <td>% 21.3</td> <td>—</td> <td>% 21.7</td> <td>—</td> <td>% 16.9</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第2次産業 就業人口比率</td> <td>% 9.7</td> <td>% 27.5</td> <td>—</td> <td>% 42.2</td> <td>—</td> <td>% 33.1</td> <td>—</td> <td>% 29.6</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第3次産業 就業人口比率</td> <td>% 19.2</td> <td>% 26.7</td> <td>—</td> <td>% 36.5</td> <td>—</td> <td>% 45.2</td> <td>—</td> <td>% 53.5</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年次	総世帯数	普通世帯				世帯数	うち 単独世帯	世帯員	1世帯当 たり人員	昭和35年	2,114	1,991	47	11,347	5.7	昭和50年	2,062	2,034	113	8,872	4.4	平成2年	2,047	2,046	175	8,093	4.0	平成17年	1,983	1,978	292	6,864	3.4	令和2年	1,756	1,751	393	4,984	2.8	区 分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		令和2年		実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	総 数	人 5,797	人 4,660	% △19.6	人 4,296	% △7.8	人 3,629	% △15.5	人 2,649	% △27.0	第1次産業 就業人口比率	% 71.1	% 45.8	—	% 21.3	—	% 21.7	—	% 16.9	—	第2次産業 就業人口比率	% 9.7	% 27.5	—	% 42.2	—	% 33.1	—	% 29.6	—	第3次産業 就業人口比率	% 19.2	% 26.7	—	% 36.5	—	% 45.2	—	% 53.5	—	<p>ウ 世帯数と1世帯当たりの世帯人員 昭和35年の総世帯数は2,114世帯でしたが、平成27年には1,846世帯まで減少しました。著しい人口減少にもかかわらず、世帯数は12.7%の減少にとどまっています。一方、1世帯当たり人員は減少傾向にあり、近年は高齢者のみの世帯が増加しています。</p> <p>第6図表 規模別世帯数の推移（国勢調査）</p> <table border="1" data-bbox="1234 549 1989 805"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th rowspan="2">総世帯数</th> <th colspan="4">普通世帯</th> </tr> <tr> <th>世帯数</th> <th>うち 単独世帯</th> <th>世帯員</th> <th>1世帯当 たり人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>昭和35年</td><td>2,114</td><td>1,991</td><td>47</td><td>11,347</td><td>5.7</td></tr> <tr><td>昭和50年</td><td>2,062</td><td>2,034</td><td>113</td><td>8,872</td><td>4.4</td></tr> <tr><td>平成2年</td><td>2,047</td><td>2,046</td><td>175</td><td>8,093</td><td>4.0</td></tr> <tr><td>平成17年</td><td>1,983</td><td>1,978</td><td>292</td><td>6,864</td><td>3.4</td></tr> <tr><td>平成27年</td><td>1,846</td><td>1,841</td><td>337</td><td>5,675</td><td>3.1</td></tr> </tbody> </table> <p>エ 産業別就業人口の推移 関川村は、長い間農業を産業の柱としてきましたが、米作環境の悪化等により、農業を中心とする第1次産業の就業人口比率は激減しています。一方、第3次産業の就業人口比率は一貫して増加しており、平成27年には約半数が第3次産業に就業しています。</p> <p>第7図表 産業別人口の動向（国勢調査）</p> <table border="1" data-bbox="1234 1070 2085 1390"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th>昭和35年</th> <th colspan="2">昭和50年</th> <th colspan="2">平成2年</th> <th colspan="2">平成17年</th> <th colspan="2">平成27年</th> </tr> <tr> <th>実数</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> <th>実数</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 数</td> <td>人 5,797</td> <td>人 4,660</td> <td>% △19.6</td> <td>人 4,296</td> <td>% △7.8</td> <td>人 3,629</td> <td>% △15.5</td> <td>人 3,011</td> <td>% △17.0</td> </tr> <tr> <td>第1次産業 就業人口比率</td> <td>% 71.1</td> <td>% 45.8</td> <td>—</td> <td>% 21.3</td> <td>—</td> <td>% 21.7</td> <td>—</td> <td>% 19.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第2次産業 就業人口比率</td> <td>% 9.7</td> <td>% 27.5</td> <td>—</td> <td>% 42.2</td> <td>—</td> <td>% 33.1</td> <td>—</td> <td>% 29.8</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>第3次産業 就業人口比率</td> <td>% 19.2</td> <td>% 26.7</td> <td>—</td> <td>% 36.5</td> <td>—</td> <td>% 45.2</td> <td>—</td> <td>% 50.7</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年次	総世帯数	普通世帯				世帯数	うち 単独世帯	世帯員	1世帯当 たり人員	昭和35年	2,114	1,991	47	11,347	5.7	昭和50年	2,062	2,034	113	8,872	4.4	平成2年	2,047	2,046	175	8,093	4.0	平成17年	1,983	1,978	292	6,864	3.4	平成27年	1,846	1,841	337	5,675	3.1	区 分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年		実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	総 数	人 5,797	人 4,660	% △19.6	人 4,296	% △7.8	人 3,629	% △15.5	人 3,011	% △17.0	第1次産業 就業人口比率	% 71.1	% 45.8	—	% 21.3	—	% 21.7	—	% 19.5	—	第2次産業 就業人口比率	% 9.7	% 27.5	—	% 42.2	—	% 33.1	—	% 29.8	—	第3次産業 就業人口比率	% 19.2	% 26.7	—	% 36.5	—	% 45.2	—	% 50.7	—
年次	総世帯数			普通世帯																																																																																																																																																																																																				
		世帯数	うち 単独世帯	世帯員	1世帯当 たり人員																																																																																																																																																																																																			
昭和35年	2,114	1,991	47	11,347	5.7																																																																																																																																																																																																			
昭和50年	2,062	2,034	113	8,872	4.4																																																																																																																																																																																																			
平成2年	2,047	2,046	175	8,093	4.0																																																																																																																																																																																																			
平成17年	1,983	1,978	292	6,864	3.4																																																																																																																																																																																																			
令和2年	1,756	1,751	393	4,984	2.8																																																																																																																																																																																																			
区 分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		令和2年																																																																																																																																																																																																
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率																																																																																																																																																																																															
総 数	人 5,797	人 4,660	% △19.6	人 4,296	% △7.8	人 3,629	% △15.5	人 2,649	% △27.0																																																																																																																																																																																															
第1次産業 就業人口比率	% 71.1	% 45.8	—	% 21.3	—	% 21.7	—	% 16.9	—																																																																																																																																																																																															
第2次産業 就業人口比率	% 9.7	% 27.5	—	% 42.2	—	% 33.1	—	% 29.6	—																																																																																																																																																																																															
第3次産業 就業人口比率	% 19.2	% 26.7	—	% 36.5	—	% 45.2	—	% 53.5	—																																																																																																																																																																																															
年次	総世帯数	普通世帯																																																																																																																																																																																																						
		世帯数	うち 単独世帯	世帯員	1世帯当 たり人員																																																																																																																																																																																																			
昭和35年	2,114	1,991	47	11,347	5.7																																																																																																																																																																																																			
昭和50年	2,062	2,034	113	8,872	4.4																																																																																																																																																																																																			
平成2年	2,047	2,046	175	8,093	4.0																																																																																																																																																																																																			
平成17年	1,983	1,978	292	6,864	3.4																																																																																																																																																																																																			
平成27年	1,846	1,841	337	5,675	3.1																																																																																																																																																																																																			
区 分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年																																																																																																																																																																																																
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率																																																																																																																																																																																															
総 数	人 5,797	人 4,660	% △19.6	人 4,296	% △7.8	人 3,629	% △15.5	人 3,011	% △17.0																																																																																																																																																																																															
第1次産業 就業人口比率	% 71.1	% 45.8	—	% 21.3	—	% 21.7	—	% 19.5	—																																																																																																																																																																																															
第2次産業 就業人口比率	% 9.7	% 27.5	—	% 42.2	—	% 33.1	—	% 29.8	—																																																																																																																																																																																															
第3次産業 就業人口比率	% 19.2	% 26.7	—	% 36.5	—	% 45.2	—	% 50.7	—																																																																																																																																																																																															

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
21 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	2 産業の 振興	(4) <u>地場産業 の振興加 工施設</u>	<u>食品加工センター改修工事 (省エネルギー化)</u>	関川村		2 産業の 振興	(加える)	(加える)	(加える)	
	(9) 観光又は レクリエ ーション	産業振興施設整備事業	関川村			(9) 観光又は レクリエ ーション	産業振興施設整備事業	関川村		
		道の駅周辺整備事業	関川村				道の駅周辺整備事業	関川村		
		大石ダム県民休養地 小動物園舎改築	関川村				大石ダム県民休養地 小動物園舎改築	関川村		
		観光案内看板 3箇所	関川村				観光案内看板 3箇所	関川村		
		「ゆ〜む」揚湯ポンプ更新工 事	関川村				「ゆ〜む」揚湯ポンプ更新工 事	関川村		
		「ゆ〜む」井戸改修工事	関川村				「ゆ〜む」井戸改修工事	関川村		
		「ゆ〜む」ボイラー設備更新 事業	関川村				「ゆ〜む」ボイラー設備更新 事業	関川村		
		<u>広域観光桂館改修工事 (省エ ネルギー化)</u>	関川村				(加える)	(加える)		
	(10) 過疎地域 持続的発展 特別事業 観光	観光コンサルティング事業 内容： <u>森林を活用した観光プ ログラムの制作</u> を委託す る。 必要性、効果： <u>観光情報</u> <u>の拡充</u> <u>が</u> <u>図られる。</u>	関川村	観光情報 <u>の拡充</u> による交流 人口の増 加が見込 まれる		(10) 過疎地域 持続的発展 特別事業 観光	観光コンサルティング事業 内容： <u>観光協会の独立・民営 化に向けたコンサルティン グ</u> を委託する。 必要性、効果： <u>観光協会の体 制強化による観光情報</u> <u>発信力</u> <u>の強化</u> が図られる。	関川村	観光情報 <u>発信力の</u> <u>強化</u> によ る交流人 口の増加 が見込ま れる	

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
22 頁			<u>湯沢温泉再生事業</u> <u>内容:村が事業主体の湯沢温</u> <u>泉を継承する民間事業者へ</u> <u>補助するもの</u> <u>必要性、効果:民間事業者が</u> <u>主体となった運営により湯</u> <u>沢温泉の振興が図られる</u>	<u>関川村</u>	<u>湯沢温泉</u> <u>が持続的</u> <u>に経営さ</u> <u>れること</u> <u>で交流人</u> <u>口の増加</u> <u>が見込ま</u> <u>れる</u>			(加える)	(加える)	(加える)

変更箇所 (変更後計画の頁、行等)	変更後					変更前				
26 頁	持続的発展 施策区分	事業名 (9) 過疎地域 持続的発展特別事業 交通施設 維持 基金積立	事業内容 越後下関駅管理業務委託事業・越後下関駅管理業務委託事業基金積立 内容：駅管理業務を委託し、駅窓口の有人化を継続する。また、その経費の財源を確保するため、基金の積み立てをする。 必要性、効果：鉄道利用者の利便性を確保でき、観光振興が図られる。	事業主体 関川村	備考 鉄道利用者の利便性が確保され、安心安全な暮らしの実現に貢献する	持続的発展 施策区分	事業名 (9) 過疎地域 持続的発展特別事業 交通施設 維持 基金積立	事業内容 越後下関駅管理業務委託事業・越後下関駅管理業務委託事業基金積立 内容：駅管理業務を委託し、駅窓口の有人化を継続する。また、その経費の財源を確保するため、基金の積み立てをする。 必要性、効果：鉄道利用者の利便性を確保でき、観光振興が図られる。	事業主体 関川村	備考 鉄道利用者の利便性が確保され、安心安全な暮らしの実現に貢献する
		通学用定期券購入補助事業・通学用定期券購入補助事業基金積立 内容：中等教育学校生、高校生、 <u>大学生等</u> を対象に、通学用定期券（JR、路線バス）購入費用の一部を村が補助する。また、その経費の財源を確保するため、基金の積み立てをする。 必要性、効果：公共交通機関の利用促進と子育て支援の充実に図ることができる。	関川村	公共交通機関の維持と子育て支援により、安心安全な暮らしの実現に貢献する			通学用定期券購入補助事業・通学用定期券購入補助事業基金積立 内容：中等教育学校生、高校生、 <u> </u> を対象に、通学用定期券（JR、路線バス）購入費用の一部を村が補助する。また、その経費の財源を確保するため、基金の積み立てをする。 必要性、効果：公共交通機関の利用促進と子育て支援の充実に図ることができる。	関川村	公共交通機関の維持と子育て支援により、安心安全な暮らしの実現に貢献する	

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
30 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	5 生活環 境の整 備	(2)下水処理 施設 公共下水道 農業集落 排水事業	ストックマネジメントに基づ く更新事業	関川村		5 生活環 境の整 備	(2)下水処理 施設 公共下水道 農業集落 排水事業	ストックマネジメントに基づ く更新事業	関川村	
			せきかわ浄化センター場内設 備更新事業	関川村				せきかわ浄化センター場内設 備更新事業	関川村	
			マンホールポンプ更新事業	関川村				マンホールポンプ更新事業	関川村	
			<u>下水道管路設備更新事業</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	
		その他	合併処理浄化槽整備事業	関川村			その他	合併処理浄化槽整備事業	関川村	

変更箇所 (変更後計画の頁、行等)	変更後					変更前				
31頁 ～32頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主体	備考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主体	備考
	5 生活環境の整備	(7) 過疎地域持続的発展特別事業 防災・防犯基金積立	<p>集落街灯更新支援事業・集落街灯更新支援事業基金積立 内容：交通安全や防犯環境の整備のため、集落が行う集落所有街灯のLED化工事等について、その費用の一部を村が負担するもの。また、その財源を確保するため、経費の積立を行う。 必要性、効果：交通安全及び防犯環境の整備の促進。</p> <p><u>災害ボランティアセンター支援事業</u> 内容：社会福祉協議会が実施するボランティアセンターの立ち上げ訓練等への補助。 必要性、効果：災害発生時に円滑に災害対応ができるよう備えることで、災害に強い村づくりを推進する。</p>	<p>関川村</p> <p>関川村</p>	<p>交通安全と防犯環境が整備されることで、安心安全な暮らしの実現に貢献する</p> <p><u>災害に備えることで、安心安全な暮らしの実現に貢献する</u></p>	5 生活環境の整備	(7) 過疎地域持続的発展特別事業 防災・防犯基金積立	<p>集落街灯更新支援事業・集落街灯更新支援事業基金積立 内容：交通安全や防犯環境の整備のため、集落が行う集落所有街灯のLED化工事等について、その費用の一部を村が負担するもの。また、その財源を確保するため、経費の積立を行う。 必要性、効果：交通安全及び防犯環境の整備の促進。</p> <p>(加える)</p>	<p>関川村</p> <p>(加える)</p>	<p>交通安全と防犯環境が整備されることで、安心安全な暮らしの実現に貢献する</p> <p>(加える)</p>

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
36 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	6 子育て 環境の 確保、高 齢者等 の保健 及び福 祉の向 上及び 増進	(1) 児童福祉 施設 保育所 児童館	下関保育園改修工事 <u>通園バス購入 1台</u> 「光兔こども館」エアコン改 修工事 <u>光兔こども館改修工事(省エ ネルギー化)</u>	関川村 <u>関川村</u> 関川村 <u>関川村</u>		6 子育て 環境の 確保、高 齢者等 の保健 及び福 祉の向 上及び 増進	(1) 児童福祉 施設 保育所 児童館	下関保育園改修工事 <u>(加える)</u> 「光兔こども館」エアコン改 修工事 <u>(加える)</u>	関川村 <u>(加える)</u> 関川村 <u>(加える)</u>	
		(3) 高齢者福 祉施設 高齢者生 活福祉セ ンター	「ゆうあい」居室改修工事 「ゆうあい」ベランダ床張替 工事 <u>ふれあいの家改修工事(省エ ネルギー化)</u> <u>社会福祉センター改修工事(省 エネルギー化)</u> <u>はなみの里改修工事(省エネ ルギー化)</u> <u>つなぐ改修工事(省エネルギ ー化)</u>	関川村 関川村 <u>関川村</u> <u>関川村</u> <u>関川村</u>			(3) 高齢者福 祉施設 高齢者生 活福祉セ ンター	「ゆうあい」居室改修工事 「ゆうあい」ベランダ床張替 工事 <u>(加える)</u> <u>(加える)</u> <u>(加える)</u> <u>(加える)</u>	関川村 関川村 <u>(加える)</u> <u>(加える)</u> <u>(加える)</u>	
		(5) 障害者福 祉施設 地域活動支 援センター	「さくら工房」エアコン改修 工事 「さくら工房」トイレ改修工 事	関川村 関川村			(5) 障害者福 祉施設 地域活動支 援センター	「さくら工房」エアコン改修 工事 「さくら工房」トイレ改修工 事	関川村 関川村	
		(7) 市町村保健 センター及 び母子健康 包括支援セ ンター	保健センター屋根防水工事 <u>保健センター改修工事(省エ ネルギー化)</u>	関川村 <u>関川村</u>			(7) 市町村保健 センター及 び母子健康 包括支援セ ンター	保健センター屋根防水工事 <u>(加える)</u>	関川村 <u>(加える)</u>	
		(8) 過疎地域持 続的発展特 別事業 <u>児童福祉</u>	<u>子ども医療費助成事業</u> <u>内容: 出生から高校卒業程度</u> <u>までの子どもの医療費を助</u> <u>成する。</u> <u>必要性、効果: 子育てに係る</u> <u>経済的な負担の軽減を図</u> <u>り、子どもを産み育てやす</u> <u>い村づくりを推進する。</u>	<u>関川村</u>	<u>子どもを</u> <u>産み育て</u> <u>やすい村</u> <u>づくりの</u> <u>実現に貢</u> <u>献する</u>		(8) 過疎地域持 続的発展特 別事業 <u>(加える)</u>	<u>(加える)</u>	<u>(加える)</u>	<u>(加える)</u>

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
37 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
		高齢者・ 障害者福 祉	<u>子ども用紙おむつ助成事業</u> 内容：子ども用紙おむつの購入 費を助成する。 必要性、効果：子育てに係る 経済的な負担の軽減を図 り、子どもを産み育てやす い村づくりを推進する。	関川村	<u>子どもを 産み育て やすい村 づくりの 実現に貢 献する</u>			(加える)	(加える)	(加える)
			社会福祉協議会運営費補助事 業 内容：社会福祉協議会の運営 費を補助する。 必要性、効果：村の地域福祉 を担っている社会福祉協議 会の運営を補助すること で、安定的な各種福祉政策 の実施が可能となる。	関川村	地域福祉 施策の安 定的な実 施により 安全な暮 らしの実 現に貢献 する		高齢者・ 障害者福 祉	社会福祉協議会運営費補助事 業 内容：社会福祉協議会の運営 費を補助する。 必要性、効果：村の地域福祉 を担っている社会福祉協議 会の運営を補助すること で、安定的な各種福祉政策 の実施が可能となる。	関川村	地域福祉 施策の安 定的な実 施により 安全な暮 らしの実 現に貢献 する
			お届けお昼ご飯事業 内容：食事作りが困難な在宅 高齢者や障がい者へ栄養バ ランスのとれた昼食を届け る。 必要性、効果：村民の健康状 態の向上が図られ、見守り による利用者の異変に早期 対応することが可能とな る。	関川村	健康状態 の向上と 見守りに より安心 安全な暮 らしの実 現に貢献 する			お届けお昼ご飯事業 内容：食事作りが困難な在宅 高齢者や障がい者へ栄養バ ランスのとれた昼食を届け る。 必要性、効果：村民の健康状 態の向上が図られ、見守り による利用者の異変に早期 対応することが可能とな る。	関川村	健康状態 の向上と 見守りに より安心 安全な暮 らしの実 現に貢献 する
			<u>地域生活支援事業</u> 内容：障がい者の状況に応じ て、外出の支援や就労の支 援などを提供するもの。 必要性、効果：障がいのある 人もない人も、住み慣れた 地域で自立した暮らしがで きる地域共生社会を推進す る。	関川村	<u>誰もが住 みやすい 環境を整 えること で、安心 安全な暮 らしの実 現に貢献 する</u>			(加える)	(加える)	(加える)

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
39 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	7 医療 の確保	(1) 診療施設 診療所	医療機器等導入事業 <u>関川診療所改修工事(省エネ ルギー化)</u>	関川村 <u>関川村</u>		7 医療 の確保	(1) 診療施設 診療所	医療機器等導入事業 (加える)	関川村 (加える)	
		(4) その他	病院群輪番制病院設備整備事 業負担金	村上市			(4) その他	病院群輪番制病院設備整備事 業負担金	村上市	

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
41 頁～ 42 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	8 教育の 振興	(1) 学校教育 関連施設 校舎	空調設備整備事業(小中学校)	関川村		8 教育の 振興	(1) 学校教育 関連施設 校舎	空調設備整備事業(小中学校)	関川村	
			ランチルーム空調・改修事業 (中学校)	関川村				ランチルーム空調・改修事業 (中学校)	関川村	
			照明設備改修事業(小中学 校)	関川村				照明設備改修事業(小中学 校)	関川村	
			<u>関川小学校改修工事(省エネ ルギー化)</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	
			<u>関川中学校改修工事(省エネ ルギー化)</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	
		スクールバス・ ポート	スクールバス 購入 4台	関川村			スクールバス・ ポート	スクールバス 購入 4台	関川村	
		給食施設	給食調理場共同化事業(小中 学校)	関川村			給食施設	給食調理場共同化事業(小中 学校)	関川村	
		その他	学校 I C T 機器更新事業(小 中学校)	関川村			その他	学校 I C T 機器更新事業(小 中学校)	関川村	
		(3) 集会 施 設、体育施 設等 公民館、 体育施設 集会施設	<u>村民会館改修工事(省エネ ルギー化)</u>	関川村			(3) 集会 施 設、体育施 設等 公民館 体育施設 (加える)	村民会館施設 <u>整備改修事業</u>	関川村	
			<u>女川ふるさと会館改修工事 (省エネルギー化)</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	
			<u>の～む改修工事(省エネ ルギー化)</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	
		体育施設	<u>ど～む改修工事(省エネ ルギー化)</u>	<u>関川村</u>			(加える)	(加える)	(加える)	
			<u>安角ふれあい自然の家改修工 事(省エネルギー化)</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	
			<u>川北ふれあい自然の家改修工 事(省エネルギー化)</u>	<u>関川村</u>				(加える)	(加える)	

変更箇所 (変更後計画の頁、行等)	変更後					変更前				
45 頁	持続的発展施策区分	事業名	事業内容	事業主体	備考	持続的発展施策区分	事業名	事業内容	事業主体	備考
	10 地域文化の振興等	(1)地域文化振興施設等 その他	せきかわ歴史とみちの館改修工事(省エネルギー化)	関川村		10 地域文化の振興等	(1)地域文化振興施設等 その他	せきかわ歴史とみちの館施設改修事業	関川村	
			東桂苑改修工事(省エネルギー化)	関川村				(加える)	(加える)	

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後	変更前
46 頁	<p>12. 再生可能エネルギーの利用の促進</p> <p>(1) 現況と問題点 (削る)</p> <p><u>ア 頻発化・激甚化する自然災害に対応した電力レジリエンスの強化</u> 近年、自然災害は地球温暖化の影響を背景に頻発化・激甚化する傾向にあります。</p> <p><u>本村は、地域の約 88%が林野であり、耕地は 4.9%、宅地は 0.7%とわずかで、荒川とその支流沿いの少ない可住地域に 54 の集落が点在していることから東西に流れる荒川の氾濫による水害リスクを常に抱えているほか、村全域が豪雪地帯対策特別措置法に基づく特別豪雪地帯に指定されるなど、本村は多様な自然災害のリスクに対する対応が必要な地域といえます。</u></p> <p><u>令和 4 年 8 月豪雨の際は、村役場や指定避難所である小・中学校や、診療所が集中する本村中心部が冠水したことにより避難作業に多大な影響が出たことから、電力インフラ・システムの強化をする必要があります。</u></p> <p><u>イ エネルギー代金の地域外流出を防止するためのエネルギー自給率の向上・再エネ最大限導入</u> REPOS データによれば、本村の再エネルギー導入ポテンシャルは全村の電気消費量である 27,057MWh (2020 年度) の約 50 倍の 1,308,419 MWh となっています。</p> <p><u>しかし、村内で作られる再エネは対消費電力 FIT 導入比ですら約 12%で、しかも FIT 電力は村外に売電していることから地域経済の資金循環に全く寄与していません。</u></p> <p><u>これらの豊富なエネルギー資源を村内で最大限に活用するとともに村外へ供給することで、エネルギー費用の域内循環や新たなエネルギー産業の創生や雇用促進が期待されます。</u></p> <p><u>ウ 再生エネルギー活用</u> 専門機関と連携し、新電力会社による事業化の可能性や採算性等の調査を行い、村での再生可能エネルギーの活用の必要性について検討を行います。</p>	<p>12. 再生可能エネルギーの利用の促進</p> <p>(1) 現況と問題点 村では再生可能エネルギーの有効活用がほとんどされていない状況です。今後は、地域特性、環境面、経済面といった総合的な視点に立ち、再生可能エネルギーの利用を促進し、エネルギーの地産地消に向けた取り組みを推進します。</p> <p>(加える)</p> <p>(加える)</p> <p>(加える)</p>

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後			変更前		
46 頁	具体的な解決策	具体的な数値目標	備考	具体的な解決策	具体的な数値目標	備考
	<u>再エネ発電設備 整備促進</u>	<u>太陽光発電設備 R3 : 0Kw → R7 : 3,298Kw</u> <u>温泉熱発電設備 R3 : 0Kw → R7 : 4Kw</u> <u>小型風力発電設備 R3 : 0Kw → R7 : 69Kw</u> <u>木質バイオマス発電設備 R3 : 0Kw → R7 : 294Kw</u> <u>発電設備確保 R3 : 0Kw → R7 : 367Kw</u>		(加える)	(加える)	
	<u>脱炭素先行地域の計画事業推進</u>	<u>〈民生電力部門におけるゼロカーボン化の割合〉</u> <u>R3 : 0% → R7 : 100%</u>		(加える)	(加える)	
	<u>ZEB施設の整備</u>	<u>〈脱炭素関連施設整備〉</u> <u>R3 : 0施設 → R7 : 1施設</u>		(加える)	(加える)	
	<u>地域マイクログリッド整備</u>	<u>〈自営線の整備〉</u> <u>R3 : 0km → R7 : 1km</u>		(加える)	(加える)	
	<u>地域新電力設立による電力事業の実施</u>	<u>〈電源開発による電力供給量〉</u> <u>R3 : 0kwh → R7 : 5,229,558 kwh</u>		(加える)	(加える)	
	<u>再生エネルギー活用に向けた調査の実施</u>	<u>〈調査事業 (FS 事業) の実施〉</u> <u>R元 : 0回 → R7 までに 3回</u>		再生エネルギー活用に向けた調査の実施	<u>〈調査事業 (FS 事業) の実施〉</u> <u>R元 : 0回 → R7 までに 1回</u>	

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
47 頁	続的发展施 策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	続的发展施 策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	11 再生 可能エ ネルギー の利用の推 進	(1)再生可能 エネルギー 利用施設	太陽光設備整備事業	関川村		11 再生 可能エ ネルギー の利用の推 進	(加える)	(加える)	(加える)	
	(2) 過疎地域 持続的发展 特別事業 再生エネル ギー利用	再生可能エネルギー設備整備 事業	調査事業 (FS 事業) の実施 内容：_____事業 化の可能性や採算性等の調 査を実施。 必要性、効果：村での再生可 能エネルギーの活用が必要 性について検討を実施する もの。	関川村・ 地域新電 力会社	村内資源 の循環を 促進する ことで、 持続可能 な社会に 貢献する	(加える)	(加える)	調査事業 (FS 事業) の実施 内容：新電力会社による事業 化の可能性や採算性等の調 査を実施。 必要性、効果：村での再生可 能エネルギーの活用が必要 性について検討を実施する もの。	関川村	村内資源 の循環を 促進する ことで、 持続可能 な社会に 貢献する
		(2) 過疎地域 持続的发展 特別事業 再生エネル ギー利用	太陽光発電システム等設置補助 事業 内容：太陽光発電システム等 の設置に係る費用の一部を 補助する。 必要性、効果：地球温暖化対 策の推進及び持続可能な社 会の実現が図られる。	関川村	村内資源 の循環を 促進する ことで、 持続可能 な社会に 貢献する		(2) 過疎地域 持続的发展 特別事業 再生エネル ギー利用	太陽光発電システム_設置補助 事業 内容：太陽光発電システム_ の設置に係る費用の一部を 補助する。 必要性、効果：地球温暖化対 策の推進及び持続可能な社 会の実現が図られる。	関川村	村内資源 の循環を 促進する ことで、 持続可能 な社会に 貢献する

変更箇所 (変更後計画の頁、行等)	変更後					変更前				
50 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主体	備考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主体	備考
	2 産業 の振興	(10) 過疎地域 持続的発展 特別事業 第 1 次産業	水田活用推進事業 内容:水田を活用し、非 主食用米、その他推 奨作物の生産者へ補 助する。 必要性、効果:水田利活 用の推進	関川村	水田の活用 が推進され ることで農 業経営の安 定化が見込 まれる	2 産業 の振興	(10) 過疎地域 持続的発展 特別事業 第 1 次産業	水田活用推進事業 内容:水田を活用し、非 主食用米、その他推 奨作物の生産者へ補 助する。 必要性、効果:水田利活 用の推進	関川村	水田の活用 が推進され ることで農 業経営の安 定化が見込 まれる
		観光	観光コンサルティング 事業 内容: <u>森林を活用した 観光プログラムの制 作</u> を委託する。 必要性、効果: <u>_____</u> 観光情報 <u>の拡充</u> が図られる。	関川村	観光情報 <u>の 拡充</u> による 交流人口の 増加が見込 まれる		観光	観光コンサルティング 事業 内容: <u>観光協会の独立・ 民営化に向けたコン サルティング</u> を委託 する。 必要性、効果: <u>観光協会 の体制強化による観 光情報発信力の強化</u> が図られる。	関川村	観光情報 <u>発 信力の強化</u> による交流 人口の増加 が見込まれ る

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
51 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
			<u>湯沢温泉再生事業</u> <u>内容:村が事業主体の湯沢温</u> <u>泉を継承する民間事業者へ</u> <u>補助するもの</u> <u>必要性、効果:民間事業者が</u> <u>主体となった運営により湯</u> <u>沢温泉の振興が図られる</u>	<u>関川村</u>	<u>湯沢温泉</u> <u>が持続的</u> <u>に経営さ</u> <u>れること</u> <u>で交流人</u> <u>口の増加</u> <u>が見込ま</u> <u>れる</u>			(加える)	(加える)	(加える)

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
51 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	4 交通 施設の 整備、 交通手 段の確 保	(9) 過疎地域持 続的発展特 別事業 交通施設 維持 基金積立	越後下関駅管理業務委 託事業・越後下関駅管 理業務委託事業基金積 立 内容：駅管理業務を委 託し、駅窓口の有人 化を継続する。また、 その経費の財源を確 保するため、基金の 積み立てをする。 必要性、効果：鉄道利用 者の利便性を確保で き、観光振興が図ら れる。	関川村	鉄道利用 者の利便性が 確保され、安 心安全な暮 らしの実現 に貢献する	4 交通 施設の 整備、 交通手 段の確 保	(10) 過疎地域 持続的発展 特別事業 交通施設 維持 基金積立	越後下関駅管理業務委 託事業・越後下関駅管 理業務委託事業基金積 立 内容：駅管理業務を委 託し、駅窓口の有人 化を継続する。また、 その経費の財源を確 保するため、基金の 積み立てをする。 必要性、効果：鉄道利用 者の利便性を確保で き、観光振興が図ら れる。	関川村	鉄道利用 者の利便性が 確保され、安 心安全な暮 らしの実現 に貢献する
		通学用定期券購入補助 事業・通学用定期券購 入補助事業基金積立 内容：中等教育学校生、 高校生、 <u>大学生等</u> を対象に、通学用定期 券（JR、路線バス） 購入費用の 30%を 村が補助する。また、 その経費の財源を確 保するため、基金の 積み立てをする。 必要性、効果：公共交 通機関の利用促進と子 育て支援の充実を図 ることができる。	関川村	公共交 通機 関の維持と 子育て支 援によ り、安 心安 全な暮 らしの 実現に 貢献す る			通学用定期券購入補助 事業・通学用定期券購 入補助事業基金積立 内容：中等教育学校生、 高校生 <u> </u> を対象に、通学用定期 券（JR、路線バス） 購入費用の 30%を 村が補助する。また、 その経費の財源を確 保するため、基金の 積み立てをする。 必要性、効果：公共交 通機関の利用促進と子 育て支援の充実を図 ることができる。	関川村	公共交 通機 関の維持と 子育て支 援によ り、安 心安 全な暮 らしの 実現に 貢献す る	

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
52 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
	5 生活 環境の 整備	(7)過疎地域持 続的発展特 別事業 防災・防犯 基金積立	<p>集落街灯更新支援事 業・集落街灯更新支援 事業基金積立 内容：交通安全や防犯 環境の整備のため、 集落が行う集落所有 街灯のLED化工事 等について、その費 用の一部を村が負担 する。また、その財源 を確保するため、経 費の積立を行う。 必要性、効果：交通安全 及び防犯環境の整備 の促進。</p> <p><u>災害ボランティアセン ター支援事業</u> 内容：<u>社会福祉協議会</u> が実施するボランテ ィアセンターの立ち 上げ訓練等への補 助。</p> <p><u>必要性、効果：災害発生 時に円滑に災害対応 ができるよう備える ことで、災害に強い 村づくりを推進す る。</u></p>	<p>関川村</p> <p>関川村</p>	<p>交通安全と 防犯環境が 整備される ことで、安心 安全な暮ら しの実現に 貢献する</p> <p><u>災害に備え ることで、安 心安全な暮 らしの実現 に貢献する</u></p>	5 生活 環境の 整備	(7)過疎地域持 続的発展特 別事業 防災・防犯 基金積立	<p>集落街灯更新支援事 業・集落街灯更新支援 事業基金積立 内容：交通安全や防犯 環境の整備のため、 集落が行う集落所有 街灯のLED化工事 等について、その費 用の一部を村が負担 する。また、その財源 を確保するため、経 費の積立を行う。 必要性、効果：交通安全 及び防犯環境の整備 の促進。</p> <p>(加える)</p>	<p>関川村</p> <p>(加える)</p>	<p>交通安全と 防犯環境が 整備される ことで、安心 安全な暮ら しの実現に 貢献する</p> <p>(加える)</p>

変更箇所 (変更後計画の頁、行等)	変更後					変更前				
52 頁	持続的発展 施策区分 6 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	(8) 過疎地域持続的発展特別事業 <u>児童福祉</u>	<u>子ども医療費助成事業</u> 内容：出生から高校卒業程度までの子どもの医療費を助成する。 必要性、効果：子育てに係る経済的な負担の軽減を図り、子どもを産み育てやすい村づくりを推進する。	事業主体 関川村	備考 <u>子どもを産み育てやすい村づくりの実現に貢献する</u>	持続的発展 施策区分 6 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	(8) 過疎地域持続的発展特別事業 <u>(加える)</u>	(加える)	(加える)	(加える)
			<u>子ども用紙おむつ助成事業</u> 内容：子ども用紙おむつの購入費を助成する。 必要性、効果：子育てに係る経済的な負担の軽減を図り、子どもを産み育てやすい村づくりを推進する。	事業主体 関川村	備考 <u>子どもを産み育てやすい村づくりの実現に貢献する</u>			(加える)	(加える)	(加える)

変更箇所 (変更後計画 の頁、行等)	変更後					変更前				
53 頁	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考	持続的発展 施策区分	事業名	事業内容	事業主 体	備 考
		高齢者・障 害者福祉	社会福祉協議会運営費 補助事業 内容：社会福祉協議会 の運営費を補助す る。 必要性、効果：村の地域 福祉を担っている社 会福祉協議会の運営 を補助することで、 安定的な各種福祉政 策の実施が可能とな る。	関川村	地域福祉施 策の安定的 な実施によ り安全な暮 らしの実現 に貢献する		高齢者・障 害者福祉	社会福祉協議会運営費 補助事業 内容：社会福祉協議会 の運営費を補助す る。 必要性、効果：村の地域 福祉を担っている社 会福祉協議会の運営 を補助することで、 安定的な各種福祉政 策の実施が可能とな る。	関川村	地域福祉施 策の安定的 な実施によ り安全な暮 らしの実現 に貢献する
			お届けお昼ご飯事業 内容：食事作りが困難 な在宅高齢者や障が い者へ栄養バランス のとれた昼食を届け る。 必要性、効果：村民の健 康状態の向上が図ら れ、見守りによる利 用者の異変に早期対 応することが可能と なる。	関川村	健康状態の 向上と見守 りにより安 心安全な暮 らしの実現 に貢献する			お届けお昼ご飯事業 内容：食事作りが困難 な在宅高齢者や障が い者へ栄養バランス のとれた昼食を届け る。 必要性、効果：村民の健 康状態の向上が図ら れ、見守りによる利 用者の異変に早期対 応することが可能と なる。	関川村	健康状態の 向上と見守 りにより安 心安全な暮 らしの実現 に貢献する
		<u>地域生活支援事業</u> 内容： <u>障がい者の状況</u> <u>に応じて、外出の支</u> <u>援や就労の支援など</u> <u>を提供するもの。</u> 必要性、効果： <u>障がいの</u> <u>ある人もない人も、</u> <u>住み慣れた地域で自</u> <u>立した暮らしができ</u> <u>る地域共生社会を推</u> <u>進する。</u>	関川村	<u>誰もが住み</u> <u>やすい環境</u> <u>を整えるこ</u> <u>とで、安心安</u> <u>全な暮らし</u> <u>の実現に貢</u> <u>献する</u>			(加える)	(加える)	(加える)	

